

「公と民との考え方の相違について」



本條会長との御縁により、僭越ではございますが、諸先輩方の前でお話させて頂く機会を頂き、感謝申し上げます。市民の皆様より付託を受け、市議会議員も3期目に入りました。この間、私が感じた地方公共団体と民間企業との相違についてお伝え致します。

冒頭に、初めてご挨拶させて頂いた方もおられましたので自己紹介を行いました。たつの市生まれ、たつの市出身で、大学より東京へ。24歳の時にワーキングホリデー制度を利用しカナダへ渡航致しました。そこでは多種多様な人種、考え方があることを知り、多くの知見を得ることが出来ました。帰国後は、レストラン・ウェディングの会社やホテルでサービス業に従事した後、地元に戻ってきました。現在は、市議会議員と共に、父親の経営している書店業、また数学の教員免許や海外の経験をもとに2010年より学習塾を経営、講師を行っています。これまで延べ100名以上の生徒と関わってきました。実際、生徒たちから市政について生の声を聞くことも出来、議場での質問に繋がったこともあります。

所属してきました団体としては、商工会青年部やこども園のPTA会長を歴任して参りましたが、その中でも2008年に入会しました一般社団法人龍野青年会議所での活動が今の私を形成しているといっても過言ではないくらい、先輩方や同期・後輩のメンバーに恵まれてまちづくり、ひとづくり等、様々な経験をさせて頂く機会が多くありました。そして、市民の付託を受けた後、市議会議員を務めることになりました。

市議会議員になってからは、まずは市民の皆様にも市政の事を知って頂くことが最低限の務めと思い、これまで市政報告紙を15回、増刊号を8回発行してきました。また会派でも会派紙を発行し、必要な情報が市民の皆様にも届くよう努めてきました。他に、架け橋となるべく企業と企業との繋ぎ役も行って参りました。一例では皮革製品を製作していました会社に後継者がおらず廃業もやむ無しとのことでしたが、せつかくの技術を途絶えさせることがもったいないと感じ、引き受けて下さる企業を知り合いに相談し探したところ、承継が実現を致しました。今後の益々の発展を期待したいところです。

また、議場での質問も議員としての重要な役目です。この6月議会では『バーベキュー場・キャンプ場の整備について』を一般質問致しました。あるキャンプ場のサイトではたつの市内で検索しても該当なしとのことで寂しい感じを受けていました。地理的にもいい場所で観光資源もあるたつの市に誘致などの取組が必要ではないかと提案致しました。そのような議論のやりとりは市のホームページ内で録画映像にてご覧頂けます。是非、ご覧頂ければ幸いです。

議場での質問を行うことで実現する施策もあります。市当局側も是々非々で取り組んでくださります。その為にも日々、様々な情報を収集し政策提案していくことが議員としての務めであると思います。最近ではSNSなどネットを使った情報発信、逆にSNSを利用しての相談も多くなってきました。市民の皆さんの声に耳を傾けながら、日々取り組んで参りたいと思います。

さて、本題である、公と民との違いですが、一言でいうと民は『どれだけ忘れないか』、公は『どれだけ取捨選択するか』ということです。

民は普段からのコミュニケーション、ちょっとした会話の中にビジネスチャンスが転がっていることがあります。たくさんの人と会い、話をする中で人脈が形成されますし、会話からビジネスに繋がることがあり、どれだけ会話を忘れないかが重要だと思います。他方、公の場合、住民からの要望は限度

がありません。もちろん、道路が陥没した等、緊急な状況にはすぐに対応してくれますが、それほど現状に支障がない案件については動きが遅くなることがよくあります。限られた予算の中では取捨選択をしていく必要があります。一例をあげますと『市に3年前に頼んだ要望がなにも音沙汰ないけど。どうなっている』との声があり、調査したところ、担当者も変わり、よく把握していないとの事でした。予算は単年度制であり、毎年継続して要望していく必要があるのは、民との相違だと思えます。

また、会計について議員になってから初めて知ったことがありました。収入より支出を引いた金額がプラスになっていても必ずしもその経営が順調とは言えないということです。収入の中に他会計補助金や他会計負担金との項目があれば、それは一般会計から繰り入れていることがあるからです。仮に、その他会計補助金や負担金の金額を除いたならば、赤字になる場合がほとんどです。しかしながらこの他会計からの繰入金を入収入として計上する為、黒字との考え方になります。行政で黒字といっても他会計からいくら繰り入れられているのかチェックすることも重要な議員の役目です。たつの市でも下水道では多額の金額が繰り入れています。その繰入金額を少なくする為に、国に対しての陳情活動があります。国の予算概算要求は8月末に提出することになりますので、各自治体とも夏に陳情活動が盛んになります。たつの市では毎年、陳情活動を市長側・議会側共に行っており、兵庫県でトップ5に入る特別交付税を頂いています。

民間は地域貢献や利益を求める目的がありますが、地方自治体の役割として地方自治法に『住民の福祉の増進を図る』と記されています。民間が出来ないことを施策として実施する。このことも相違だと思えます。

最近では、自治体は経営だと言われることもあります。参加者の皆様にある問いかけを致しました。民間の会社が自治体の図書館を運営していくにあたり、年間1億以上の指定管理料を支払っていくことに対してどのように思われますか。

民間が運営していくことで住民の満足度は格段に上がります。しかしながらそれだけの金額が毎年かかります。賛成ですか、反対ですか。このような議題を市民の皆さんと共有し、意見を述べるのが議会であり、議員の役割だと思えます。

最後に私が常日頃、心の中に刻んでいることは『感謝』です。かつて或る僧曰く、『正月に朝日を拝む人は多いけれど、大晦日の夕日を拝む人は少ない。毎年大晦日の夕日を眺め、おてんとう様、今年一年ありがとうございました、と感謝する。そういう事を出来る人は豊かな人生をおくる事が出来るのではないのでしょうか。』というものです。皆さんいかが思われますか。

『恩』に感謝を申し上げ、このような素晴らしい団体に所属の皆さんの前で話す機会、また貴重な経験をさせて頂いたことに感謝申し上げます。